



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日本語)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630



◎石叫■

「現代の奇跡」

『ユーオディア』(3・4月号)という伝道紙に下稲葉康之医師の特集「お母さんは死ぬんだよ」という記事があり、現代の奇跡とは何かを考えさせられた。車椅子で入院してきた三十五歳の婦人がいた。傍らには鎮痛な面持ちの夫と、まだあどけなさの残る三人の幼い子どもたちがいた。この家庭を病魔が襲った。彼女が子宮がん倒れたのである。手術・抗がん剤治療を受けたが、再発。免疫療法や放射線治療が相次いでなされたが効なく、病巣は骨盤内に拡大していた。入院時に夫を呼んで説明した。「腎不全がかなり進行しており、余命やく一ヶ月。従って医療上の手当てを施しつつも、どうしたら限りある日々を悔いなく有意義に過ごせるかを考えましょう」と訴えた。その翌日、夫婦は三人の子どもたちに率直に語りかけた。「お母さんは、一ヶ月後に死ぬんだけど、いつもあなたたちと一緒に。ずっと守ってあげるからね」。子どもたちは、父親の送り迎えで病室から通学した。神の奇跡は現代社会のどこに見られるのか、と問われるなら、私は躊躇なく答える。「それは決して超自然的な病の癒やしではなく、絶望的な状況にある末期がん患者に生き生きとした望みを与える神の働きにある」と。まことに神の力は弱さのうちに現れる。「この夫婦に神の働きあれよかしと心から願いつつ接し、語った。二人は真剣に耳を傾け、質問し、そしてついには手を取り合せて心から神に感謝し、天国に召される日を待ち望むようになった。そのようなある日のこと、訪室すると、彼女は起き上がった。ニコニコしながら話し始めた。「ここに来てよかった。先生に会えてよかった。今、本当に嬉しい。もうすぐイエス様のところに行くから」「Mさん、強いね。どうしてそんなに強いのかなあ」と問うと、「それは私が強くないから、もうそんなに長くないから、うれしい。天国に行くので、胸がわくわくして」。厳しきただ中で、何とも澄んだすがすがしい会話だった。そして夫婦の結婚十周年記念と長女の九歳のお誕生日に、私は聖書を手にして「キリストを信じる者は、死んでも生きる」(ヨハネ一・25)と霊の感動に声を震わせながら復活の希望を語った。死別という厳しい現実に対面し、相思相愛の夫婦の絆が断たれようとする中で、確かに神が働き、その関係は不変不動なものとされていった。

ここで下稲葉先生は、「現代の奇跡は絶望的な状況にある患者に望みを与える神の働きにある」と断言している。信仰による救いを経験することこそが最大の奇跡なのだ。肉体の癒やしは一時的だが、魂の癒やしは永遠に続くからだ。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

